



ホーム ●

Wednesday 23rd September 2026

お問い合わせ

個人情報保護方針

利用規約

知的財産

ホーム

お問い合わせ

個人情報保護方針

利用規約

知的財産



人気の広告、ようこそ

Get it now



Home / プレスリリース /

蝶映芸術文化代理の楊嘉美・梁海欣・Kwai Bun、国立新美術館に出展

蝶映芸術文化代理の楊嘉美・梁海欣・  
**Kwai Bun**、国立新美術館に出展



Exposition de l'Art Actuel France - Japon Internationale

JIAS 日本国際美術家協会

第27回

2026

# 日本・フランス 現代美術世界展

～サロン・ドートゥヌ特別協賛～

主催: JIAS 日本国際美術家協会 協催: 欧州美術クラブ 後援: 在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ 外務省 特別協賛: サロン・ドートゥヌ



## 「第27回 日本・フランス現代美術世界展 2026」——サロン・ドトーヌ特別協賛

「第27回 日本・フランス現代美術世界展 2026」会場にて。本展メインビジュアルの前に立つ出展作家と蝶映芸術文化チーム。蝶映芸術/提供

日本東京 / [Timesnewswire](#) / 2026年9月21日 - 「第27回 日本・フランス現代美術世界展 2026」

(27ème Exposition de l'Art Actuel France-Japon Internationale 2026/サロン・ドトーヌ特別協賛) が、東京・六本木の国立新美術館 3A・3B展示室にて開催された（会期：2026年8月6日～8月16日）。同館は森美術館、サントリー美術館と並ぶ「六本木アート・トライアングル」の一角を占める。本展には、蝶映芸術文化有限公司（DE Global Art Agency）が代理する3名の国際的アーティスト——彫刻家 楊嘉美（May Yeung）、水彩作家 梁海欣（Anita Leung）、水墨作家 Kwai Bun ——が出展し、彫刻・水彩・水墨という三つの言語で、本展が掲げる異文化対話の主題に応答した。

### 楊嘉美「小橋流水」——音の余白を彫刻にする

オーストラリア出身の作家・楊嘉美の出展作「小橋流水（Blue Bridge）」（2026年、木に彩色、36 × 10 × 3 cm）は、2025年10月、フランス・ルーヴル美術館カルーゼル会場での出展期間中にモネのジヴェルニーの庭を訪ねた経験から構想された。日本の橋のイメージを、色彩・リズム・瞑想をめぐる静謐な楽章へと変換した作品である。

天青色とエメラルドグリーンが織りなす柔らかな弧線は、楽譜における四分休符の停止感に呼応し、来場者に「眼で聴く」ことを促す。橋は連結であると同時に転換でもあり、余白と「間」の視覚的伝統に応答する。その意図された沈黙は、作家自身の聴覚の経験とも重なり合う——音が退いたとき、見ることはもう一つの聴くことになる。作家は次のように記している。「小橋流水、人は天涯に在り。景を眺めて夢を紡ぎ、情はモネの橋に繋がり、睡蓮は十里に渡りなお芳しく華やぐ。」

「小橋流水」は、作家が近年展開する「ヴィジュアル・ミュージック」シリーズの延長線上にある。同シリーズは音・沈黙・身体感覚の関係を彫刻で扱うもので、2024年ドイツ・フランクフルト Discovery Art Fair、2025年ポルトガル Art Expo Lisbon、およびルーヴル美術館カルーゼル会場で発表されてきた。今回の国立新美術館への出展は、同シリーズがアジアの国立美術館へ入る初めての機会となり、作家が長く取り組んできたインクルーシブ・アートの主題——異なる感覚条件をもつ来場者が同じ作品に入っていけること——に国際的な可視性を与えた。



楊嘉美 (May Yeung) と出展作「小橋流水 (Blue Bridge)」(2026年、木に彩色、36 × 10 × 3 cm)。

国立新美術館 3A・3B展示室にて。蝶映芸術/提供

### 梁海欣のマンダラ水彩——円環によって内なる秩序へ



出品作《記得我是..佛。印度愛神—克里希納 Krishna》(私が佛であることを憶えていて—インドの愛の神クリシュナ、2025年、水彩、56×56cm) は、放射状の対称性をもつ円形構造によって飽和した色域を展開し、神話に語られるクリシュナの笛の音を視覚的なリズムへと翻訳している。

画面には、数多の動物の姿が円心を取り囲むように幾重にも配置され、笛の音に万物が集うというインド神話の叙述に呼応すると同時に、生命の介在によって幾何学的秩序に温もりと流動性をもたらしている。水彩の透明な重ね染めは紙の上で色彩をゆるやかに生成させ、動物の輪郭と花葉の文様は互いに嵌め合い、視線が巡り歩くことのできる小さな宇宙を構成する。

観る者が画面を見つめるとき、その視線はやがて中心へと導かれる。そこは笛の音の生まれる場所であり、同時に、自己の秩序が新たに据え直される場所でもある。



梁海欣 (Anita Leung) と出展作「記得我是..佛。印度愛神—克里希納 (Krishna)」(2025年、水彩、56 × 56 cm)。会場で海外来場者と。蝶映芸術/提供

## Kwai Bun——一人が千の相となる、ライブドローイングの水墨



多分野にわたって活動するアーティスト Kwai Bun は、紙本水墨作品「A Thousand Faces」(950 × 735 mm) を本展に出展した。

「A Thousand Faces」は、人、時間、そして描くことの即時性に対する作家の長年の関心を映し出す作品である。ライブドローイングによって制作された本作は、数十もの人物の姿を一つの画面に集める。それぞれの姿は単なるポーズではなく一人の人物の肖像であり、移ろう角度、身振り、感情の状態を通して捉えられている。

Kwai Bun にとって、描くことは最も直接的な自己表現の方法である。流麗で緻密な線は動く身体を記録すると同時に、作家と対象が出会う瞬間のエネルギーをとどめる。「A Thousand Faces」において、一人の人物は多くの相へと変わる——一連のスナップショットが一つの作品に凝縮され、人の存在がもつ複雑さ、動き、そして親密さを浮かび上がらせる。

作家は自らの実践を、人と時間への自然な執着と表現する。「美しい瞬間は、ただ一度きり、束の間にはしか存在しない」と彼は語る。紙本水墨を通して、Kwai Bun は目の前の対象だけでなく、その瞬間の自身の心の状態をも捉える。作品は他者の肖像であると同時に、作家自身を映す鏡ともなる。

Kwai Bun はヴィジュアル・アーティスト、発明家、アニメーション監督、クリエイティブ・テクノロジスト、起業家であり、長年のライブドローイング（人体写生）を通じて培われた、洗練され極めて個人的な線で知られる。その実践は紙本水墨をはじめ、パフォーマンス、デジタルアート、衣服、オブジェ、インスタレーションに及ぶ。



Kwai Bun 出展作「A Thousand Faces」(紙本水墨、950 × 735 mm) 部分(左) / 出展作品の前に立つ作家(右)。蝶映芸術/提供

### 審査体制と審査員

本展は国際実物審査制を採用し、出品作は日本へ搬入のうえ、審査員による現地審査を経て入選が決定される。主催者発表によれば、第27回の審査員は次のとおり。本展フランス側名誉会長兼運営委員長、ル・サロン名誉会長、新エコール・ド・パリ浮世・絵美術家協会会長 ジャン・マリ・ザッキ (Jean-Marie Zacchi) 氏 / サロン・ビオレ名誉会長、フランス教育功労章オフィシエ エルベ・ロワリエ (Hervé Loirier) 氏 / 建築家、LIOTTA アーキテクチャー (パリ) 代表サルヴァトール・ジョン・A. リオッタ (Salvator John A. Liotta) 氏 / 審査アドバイザーとして JIAS 日本国際美術家協会・欧州美術クラブ代表 馬郡文平氏。さらに、サロン・ドトーヌ会長 ジャン＝クリストフ・レヴェック (Jean-Christophe Levêque) 氏が特別審査員として審査に加わった。

本展では大賞1名、準大賞2名、サロン・ドトーヌ賞2名、パリ国際サロン賞2名、NEPU賞数名が設けられている。楊嘉美「小橋流水」、梁海欣「記得我是..佛。印度愛神—克里希納 (Krishna)」、Kwai Bun「A Thousand Faces」の3点は、いずれも本審査を通過して正式に入選・展示された。



会場風景。国立新美術館 3A展示室。絵画・立体・写真が併置された展示壁面と来場者（会期：2026年8月6日～16日）。蝶映芸術/提供

### キュレーションの視点——一度の出展を、キャリアの道筋に

蝶映芸術文化有限公司 董事長の辜琪鈞は次のように述べる。「国立美術館に入るということは、作家にとって一度の露出ではなく、積み上げられるキャリアの資産です。美術館での展示歴、国際的な受賞、コレクターの名簿は、その後の画廊契約、アートフェア、收藏の体系へ進むための通行証になります。私たちの仕事は、その道筋を再現可能な制度にすることです。」

蝶映芸術文化は「学術的正統性を基盤に、国際的なキャリアを目標に」を掲げ、出品審査から国際的なキュレーション、メディア露出までを一貫して支援している。東京での出展を経て、3名の作家は既存の国際的な発表リズムを継続し、同社は国際メディアの取材対応、アートフェアへの出展、デジタル上の実績構築を並行して進め、一度の出展を長期的に運用可能なアートキャリアへと転換していく。

**プレスリリース** Tags: **Bun**国立新美術館に出展, 蝶映芸術文化代理の楊嘉美梁海欣Kwai

◀ 台風ドウジュアン上陸により、東京では450便以上が欠航となった。

強盗が21歳ブロガーを襲う ▶

## 最近の投稿

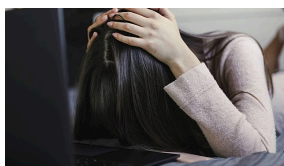


プレスリリース

### Innovation for Infinity: CEIC2026 Set to Open in Shenzhen

09/23/2026 👤 Chunqt

SHENZHEN, China / Timesnewswir [...]



社会

### ロシア人女性が「簡易遠隔サービス」を利用した詐欺計画を発見

09/23/2026 👤 Editor



## プレスリリース

# 無限へのイノベーション：CEIC2026、Shenzhenで開幕へ

09/23/2026 👤 Chunqt



## 投資

# 在エカテリンブルグ・インド総領事館が市内中心部を巡るレースへの参加を呼びかけています

09/23/2026 👤 Editor



## マーケティング

# 米国と日本は軍事同盟の能力を強化することで合意した

09/23/2026 👤 Editor

## カテゴリー

ビジネストレンド

プレスリリース

マーケティング

医療/バイオ

投資

政治

社会

経済

自転車

